© UNICEF/NYHQ2012-0197/Pirozzi

ヨルダン政府が運営し、ユニセフが支援するラムサの施設で、お絵描きのクラスを受講するシリア難民の子どもたち。2012 年、ユニセフは、シリアからの難民の子どもたちに予防接種を実施。子どもに優しい空間の設置、心理社会的支援、継続的な教育を提供した。

第1章

子どもたちのために より公平性のある世界を

2012 年度、ユニセフは各国政府ならびに広範囲な国際社会と協力し、公平性を阻む要因に対処してきました。ユニセフはまた、子どもたちが自らの力を十分に開花させ、開発の恩恵を受けられるよう、数々のプログラムを実施しました。

最も困難な立場にある子どもたちにサービスを届けるため、ユニセフとパートナー機関が行っている協働事業は、今まで成果をあげている事業をもとに、さらに改善が得られるよう設計されています。5歳未満児の死亡数は着実に減り、1990 年の推定 1,200 万人から、2011 年には 690 万人まで減少しました。初等教育におけるジェンダーの平等は世界中のほとんどの地域で実現できました。そして 2012 年、国連事務総長は、貧困の削減と安全な飲み水の提供という「ミレニアム開発目標（MDGs）」が達成された、と宣言しています。

こうした朗報がある一方、不公平さを覆い隠してしまう全国データ（平均値）への懸念も広がっています。報告値は、特定の集合体のデータとして提出することが多いのですが、進捗状況の遅さや国内格差の拡大が見えてこないことが多々あります。つまり、何百万人という子どもたちが見落とされたまま、開発のバロメーターに反映されないままになっているのです。

こうした子どもたちに支援が届くのを阻む問題があります。必須サービスを得られない子どもたちが何億人にも上る都市化の問題、政治不安の増加、地域全域の変容、自然災害と、それに伴って起きる人道危機、気候変動による持続可能性への脅威、といったものです。このような障害に輪をかけているのが依然として続く不安定な世界経済です。

克服不可能と思えるような課題が数々立ちはだかる中でも、すべての子どもたちの権利を守るというユニセフの任務に迷いはありません。ミレニアム開発目標の達成に向けてさらなる努力を行い、「ポスト 2015 年開発目標」の策定を推進する上で、公平性はユニセフが子どもたちのために努力するときの中心テーマであることに変わりはないのです。

2012 年度、ユニセフは、取り残されている子どもたちを支援するための戦略を包括化し、人間・経済開発を脅かす様々な影響力を少しでも緩和する努力をしました。ユニセフは、結果重視の業務運営に努め、業務の効率性・有効性・透明性・アカウンタビリティ（説明責任）の向上を図るという決意を引き続き維持してきました。また、革新的技術により、すべての子どもたちのために実施しているユニセフの活動が一段と進展し、公平性の実現に向けて前進しました。

© UNICEF/NYHQ2012-0243/Asselin
すぐに口にすることができる栄養補助食品を与えられる7カ月の赤ちゃん。この子が住むブルキナファソは、2012年に重大な食糧と栄養危機を経験したサヘル地域の9つの国のひとつ。

公平性の推進

グローバル・パートナーシップの面で、そして政府支援からコミュニティ支援まで、あらゆるレベルにおいて、最も置き去りにされている人たちに支援を行き渡らせることが、子どもの権利を保障するためのユニセフの主要な戦略となりました。ユニセフは、エチオピア、インド、米国政府と共に、歴史的な会議を開催しました（26ページのパネル4を参照）。

ユニセフの活動により、人道危機にある世界の1,880万以上の人々に、飲用、調理用、入浴用の安全な水が提供されました。ジブチでは、ユニセフが政府と協力し、5歳未満の子ども9万人以上がはしかの予防接種を受けることができました。アフリカのサヘル地域で危機に瀕していた子どもやその家族のために、ユニセフ国内委員会（ユニセフ協会）とユニセフの現地事務所が先駆的なソーシャル・メディア・キャンペーンを実施し、人々に状況を周知し緊急に必要とされていた資金を集めました。

ユニセフは、高官レベルの会議でも、置き去りにされている人々が受け入れられるよう積極的に政策提言を行いました。アンソニー・レーク事務局長率いるユニセフの代表団は、「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」に参加し、公平性のある開発、最も置き去りにされている子どもたちにまで届く開発を推進するよう、また、若者のエネルギーとアイデアを活用し、より健康で安全な世界を築くことができるような開発を訴えました。

ミレニアム開発目標の期限達成年度の2015年以降の開発課題をどうするか、その議論が現在進められています。ユニセフは、今後の世界的な課題を協議する11のテーマ別会議のうち5つで共同議長を務めています。紛争・災害・暴力、教育、保健、不平等への対処、水に焦点を置いたものです。それぞれのテーマ別会議は、2つから3つの国連機関が共同で議長を務め、議論の場に多様なステークホルダーが参加できるよう、革新的なオンライン・プラットフォームを利用しています。また、いくつかの国で、ユニセフは、より野心的でより新しい形の開発課題を設定するためには何を優先したら良いのか、国レベルでのコンサルテーションにも従事しています。子ども、公平性、持続可能性を新しい開発目標に含めるよう訴えかけ、ミレニアム開発目標の進捗をさらに加速させるべきだと訴えています。

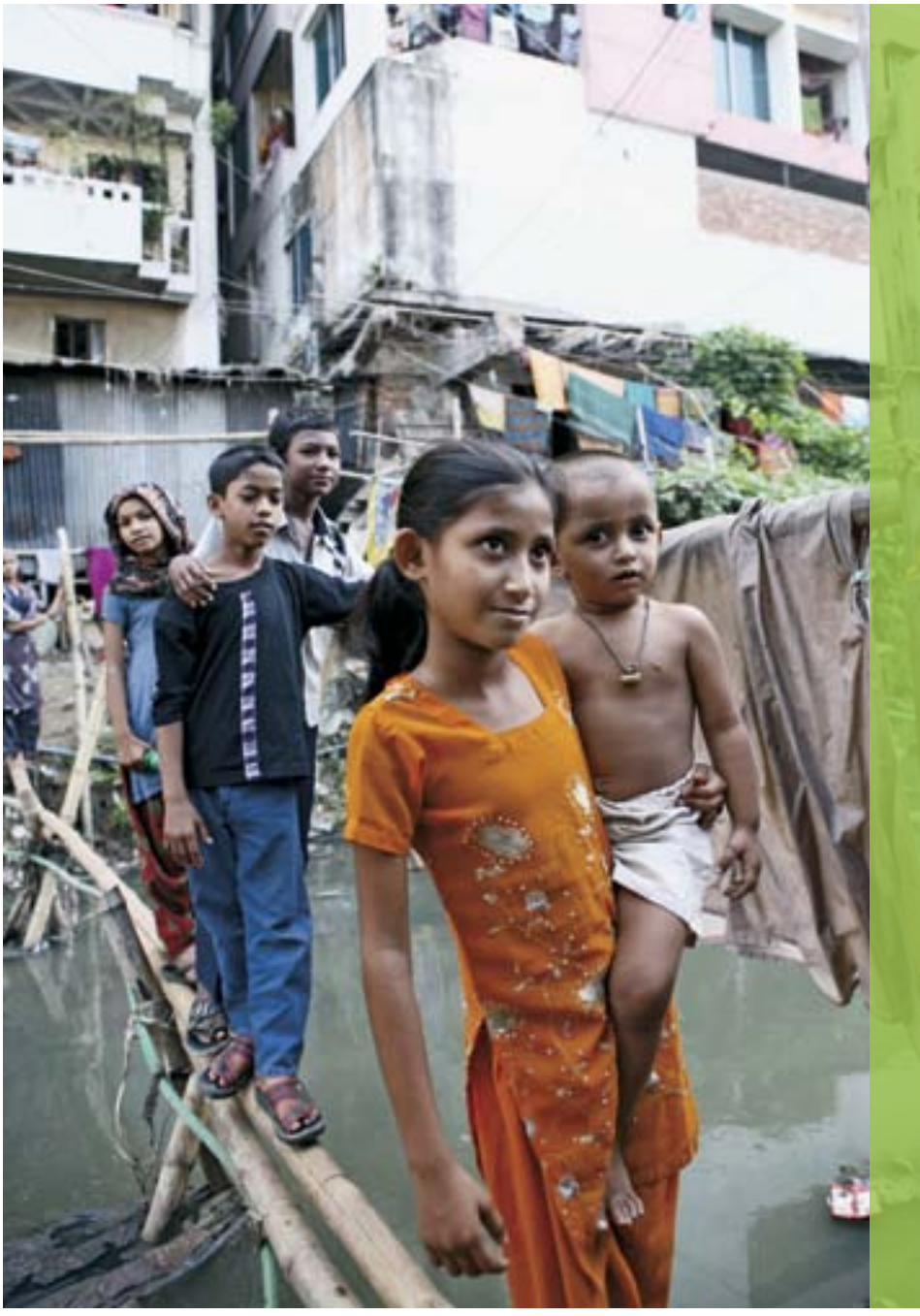
ユニセフは、サービスの効率化と重複の防止に努めています。このため、2012年、ユニセフは、国連のパートナー機関が効率性を向上させるために緊密に仕事を行う「国連の一貫性」と「ひとつの国連」戦略に積極的に取り組みました。国連システムが実施する開発事業のオペレーション面での活動レビューをするにあたり、国連加盟国が2012年12月に「4ヵ年包括政策レビュー（QCPR）」を採択したことをユニセフは歓迎しました。QCPRは、成果を中心としたマネージメントを通し、国連が何を達成し、どのようにしてこの結果を得ることができたかを明確に示すことができ、説明責任の強化に役立つはずです。

世界銀行との連携は、ユニセフが人間開発・経済開発の約束を実現するために寄与しました。2012年、教育、保健、社会保護が、世界銀行との協働事業の上位を占めました。政策設計と予算編成、水と衛生、子どもの早期ケア、アドボカシー（政策提言）、技術支援の活動が増加しました。

2012 年、ユニセフは国ごとに集めた世帯調査、その他から集められたデータを検討し、細かく分類したデータの分析により、どこに格差が隠れているかを解き明かす努力をしました。その分析結果は、ユニセフの現地事務所が行う子どものためのアドボカシー（政策提言）や、ユニセフの主要発行物である『世界子供白書 2012 都市に生きる子どもたち』、『Progress for Children: A report card on adolescents（子どものための前進：青少年（10 代）に関する報告書）』に利用されました。

ユニセフは、公平性を全体的に押し進める要因のひとつとなる、ジェンダーの平等を推進しています。「国連人口基金（UNFPA）」や「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関（UN Women）」とのパートナーシップの下、2012 年 10 月 11 日の初の「国際ガールズデー」に、児童婚の根絶についてのハイレベル会議を開催しました。このパートナーシップは、各国政府・市民社会団体・民間セクター・宗教団体・国際社会に対し、政治的意思を喚起し、子どもたちが

© UNICEF/BANA2012-01971/Kiron
バングラデシュのダッカ。運河の両端にある2つの地域を竹竿の橋が結んでいる。2つの地域の生活水準には著しい違いがある。片や市外から移住してきた人たちや不法に住居を建てた人たちが住む地域。もうひとつは、縫製業で家計を支える比較的裕福な人たちとその家族が住んでいる。



公平性実現の戦略

貧しい家族に、食料・保健ケア・生活必需品を賄うための制限付きの支援金を給付することから、女の子の就学を支援するサポート・プログラムまで、ユニセフは戦略的投資を行っています。

社会的保護、保健・教育・栄養・その他のサービスのために使われたユニセフへの拠出金や、物資の形で提供された支援は、世界的な経済危機の影響を受けた子どもたちや家族にとって非常に重要なセーフティ・ネットとなりました。2012 年、ユニセフは 104 カ国で社会的保護の支援事業を実施しました。うち約3分の1は、大規模な現金給付プログラムで、2012 年中に孤児や子どもだけの世帯も含めた何十万人という子どもたちに行き渡りました。

ユニセフは長年、社会的保護を唱えてきました。例えば、授業料廃止キャンペーンなどを立ち上げましたが、その際は、教育の質だけを改善しても、授業料を払えない子ども、学用品を買えない子どもたちにはその恩恵が行き渡らないのだということを強調してきました。効果的な社会的保護についての知識と実務能力を向上させるため、5月には初の社会的保護戦略の枠組み（Social Protection Strategic Framework）を発表しました。この枠組みは、すべての子どもたちを対象に、権利を中心としながら、公平性に重点を置いた社会的保護を実現する施策、さらにこれを協力して実行するための行動計画が中心になっています。

自らの権利を実現し、持てる力を発揮できるよう、十分な資源を提供することを求めました。

革新的で分野横断的な支援を行うことは、女の子の就学や修了を阻む障壁を取り除く上で有効であることがわかりました。国連女子教育イニシアティブ（UNGEI）は、すべての女の子が安全な支援環境で初等学校を修了し中等学校に進学できるよう、声をあげ続けました。このイニシアティブを主導する機関ならびに事務局として、ユニセフはその役割を果たしました。

障がいのある子どもたちも受け入れられるようなインクルーシブな教育は、2012 年も引き続き優先事項となりました。ユニセフは 40 カ国で、障がいのある子どもたちの権利を推進するイニシアティブに取り組み、9月、ユニセフは、「障がいのある子どもたちのためのグローバル・パートナーシップ・フォーラム」を初めて主催しました。100 を超える団体から約 240 人が参加し、障がいのある子どもたちから直接話を聞く機会が提供され、彼らの意見を「ポスト 2015 開発目標」に反映させる方法も模索されました。

2012 年、ユニセフは、一時は達成不能と考えられていたプログラム目標に到達するため、革新的技術を活用しました。

革新的技術（イノベーション）

ユニセフは複雑な課題に対処するため、最先端の技術を応用しています。2012 年、ユニセフは、一時は達成不能と考えられていたプログラム目標に到達するため、革新的技術（イノベーション）を活用しました。プログラムで使われる技術の中にもイノベーションが潜んでいます。例えば、ナイジェリアやウガンダでは出生データの収集や出生登録を推進するため、携帯電話のショート･メッセージ･サービス（SMS）を採用しています。また、肺炎や下痢に対する安価で実績のある支援プログラムでも革新的な技術が使われています。革新的なプログラム･モニタリング･システムと、効率化したプロセスにより、ユニセフは将来起こりうる問題や課題を予測・識別し、対処することができるようになりました。

また、各国政府・ドナー・若い世代との活発なパートナーシップの中でも革新的技術が活躍しています。「女の子たちのために一緒に立ち上がろう」という女子や女性への性的搾取を根絶するための世界的なパートナーシップがその一例です。「女の子たちのために一緒に立ち上がろう」では、国際的団体と公共･民間・非営利部門が連携しています。

透明性の向上

ユニセフは引き続き運営面での改善にも努めました。2012 年度、ユニセフは、国連総会で国連各機関が採用することに決まった「国際公会計基準（IPSAS）」に合致した財務諸表を初めて作成しました。さらに、ユニセフは、IPSAS と互換性のある、企業管理リソース・システム「仮想統合情報システム（VISION）」について、スタッフ研修を集中的に行い、世界中のユニセフ事務所で導入しました。

IPSAS の採用により、すでに顕著な改善が見られます。すべてのプログラム分野にわたり、結果に基づく計画策定・報告手順が標準化され、他の国連機関とユニセフ間の財務データのやりとりがスムーズになり、透明性・アカウンタビリティ（説明責任）、ガバナンスが強化されています。

2012 年度、ユニセフは、支援の透明性を高めることを目標に掲げている諸団体のネットワークである「国際援助透明性イニシアティブ（IATI）」に参加しました。IATI により、資金援助国の納税者からプログラム実施国のコミュニティ団体やステークホルダーまで、誰でも援助資金の使途や達成目標についての情報を簡単に照会・比較・理解することができるようになりました。

このほか、ユニセフのプログラムについての評価報告書・年次報告書もすべて一般に公開されています。そして現在、財務情報も一段と広い範囲に公開されています。ユニセフは内部監査報告書についても、2012 年9月 30 日以降に発行されたものはすべてオンライン上で閲覧できるようにしました。

慎重な支出

真に公平性のある世界を創造するという目

標に向けたユニセフの活動は、世界の経済状況やそれに伴い生じた財政的な制約のため、困難を極めました。それにもかかわらず、2012 年度のユニセフに対する拠出額は前年比で8% 増加。ユニセフは政府および民間部門から、拠出金または物資の形で支援を頂いています。この8% の増加は、ユニセフが拠出金として 2012 年に受け取ったものを、前年度の 2011 年度と比べた場合の増加割合を示しています。こうした経済状況の中でユニセフへの拠出額が増加したことは、ユニセフの専門・技術知識、広範なパートナーシップ、全世界に及ぶ活動範囲を活用して、日々子どもたちの命と生活の改善のために努力しているユニセフの実行力に対し、支援者が変わらない信頼と信任を寄せてくださっている表れと言えます。

ユニセフは、すべての地域の子どもたちや家族のニーズを分析し、その優先順位を判断した上で資源を配分しています。2012 年度の支出総額は 38 億 6,600 万ドルで、そのうち、プログラムおよびその実効性向上のための費用を含む開発支援事業支出は 34 億 1,600 万ドルでした。プログラムの実効性向上事業は、政策助言、技術・導入支援など、ユニセフが現場で効果的にプログラムを実施できるようにするための活動です。

子どもたちが生存し、健康な生活を送ることができるよう支援を実施するというユニセフのコミットメントに従い、2012 年のプログラム支出の半分（15 億 6,600 万ドル）以上が子どもの生存と発達のために用いられました。プログラム支出の中で2番目に支出が大きかった分野は基礎教育とジェンダー格差の是正で、6億 500 万ドルに上りました。プログラム支出の中の 57% がサハラ以南のアフリカに、23% がアジアにあてられました。

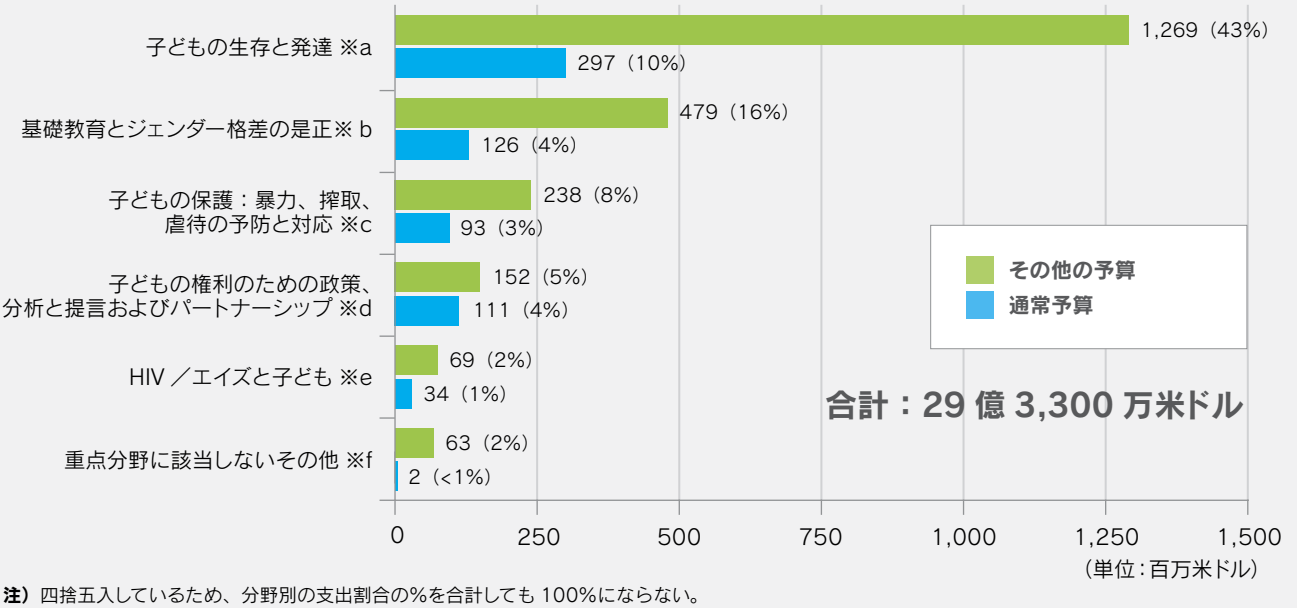
表1　ユニセフの支出総計　財政区分別（2012 年）

（単位：百万米ドル）

支出区分	合計
開発支援事業費	**3,416**
プログラム費	3,292
実効性向上事業費	124
管理・運営費	**322**
特別な目的に関わる支出（民間部門との連携やパートナーシップを含む）	**127**
国連の開発支援事業に関わる連携調整費	**2**
総支出	**3,866**

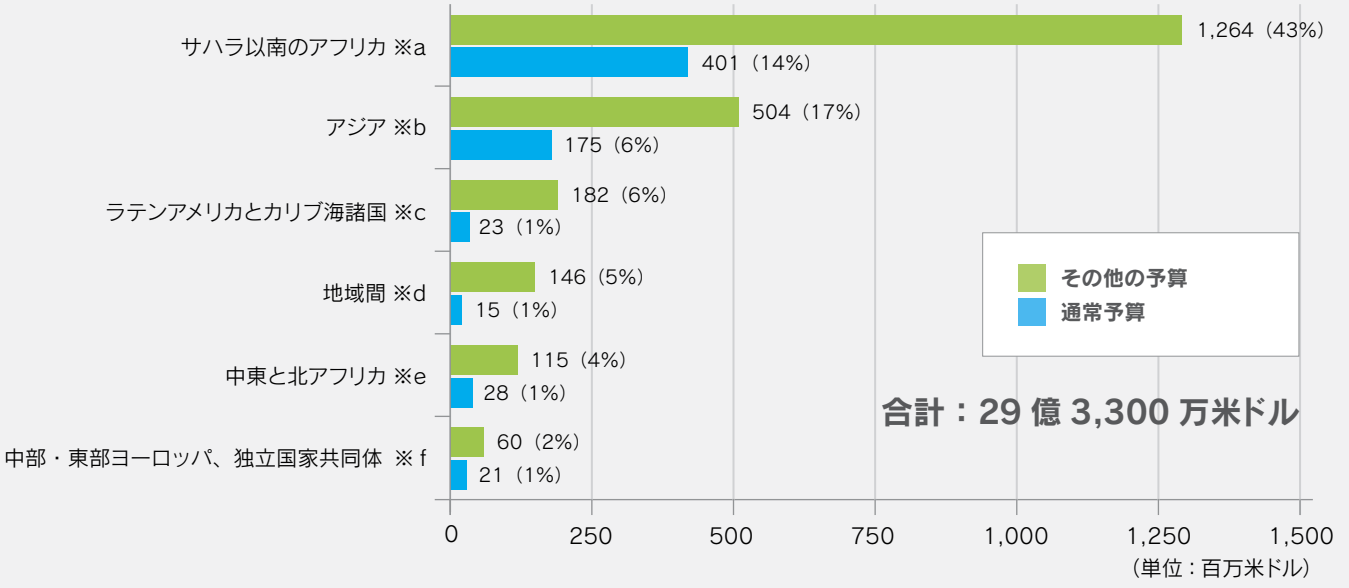
注：支出内訳は、準現金主義で示されており、年度末の時点で未払いだった現金支出分や支出見込が反映されている。2011年度の総支出は、38億1900万ドルであった。しかし、2012年から新しい区分が採用されたため、同じ区分けで2011年と比較することはできない。数値は四捨五入してあるため、財政区分の数値を合計しても3,866にはならない。

図1　ユニセフ中期事業計画（MTSP）の重点分野別の事業支出割合（2012 年）



注） 四捨五入しているため、分野別の支出割合の%を合計しても 100%にならない。
* 分野別計：　※a.　1,566（53%）、※b.　605（21%）、※c.　331（11%）、※d.　263（9%）、※e.　103（4%）、※f.　65（2%）

図2　地域別の事業支出割合



注） 四捨五入しているため、地域別支出割合を合計しても 29 億 3,300 万あるいは 100%にならない。
* ジブチとスーダンへのプログラム支援は、「サハラ以南のアフリカ」に含まれる。
* 地域別計：　※a.　1,665（57%）、※b.　679（23%）、※c.　205（7%）、※d.　161（5%）、※e.　143（5%）、※f.　81（3%）
* その他の予算－特定のプロジェクトを指定した支援プログラムに用いられる。
通常予算－使途に関する制限がなく、ユニセフが実施する様々な支援プログラムに用いられる。幅広い用途が可能な通常予算は、ユニセフの開発途上国での支援活動を支えている。

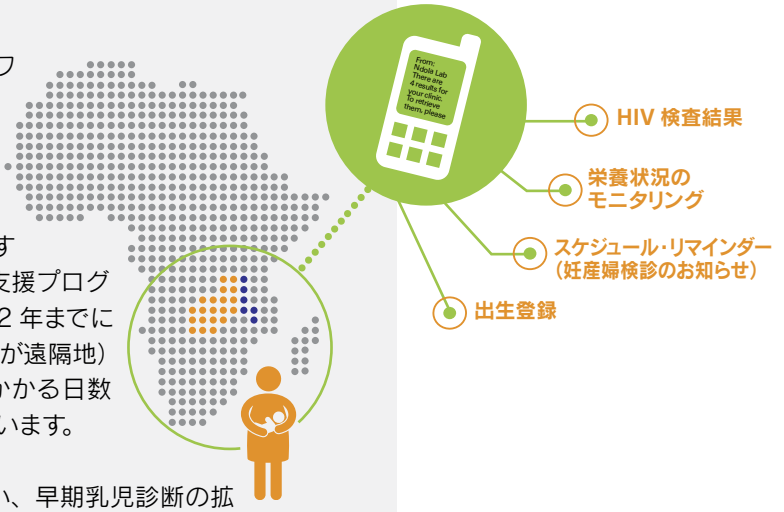
パネル1　既成概念を打破する

2012 年、ユニセフは引き続き斬新な発想、より賢明な問題解決、より広範なパートナーシップを追い求めました。ほかとは違ったユニセフの手法のいくつかを紹介いたします。

革新的なプログラム

携帯メールを利用した HIV の早期診断

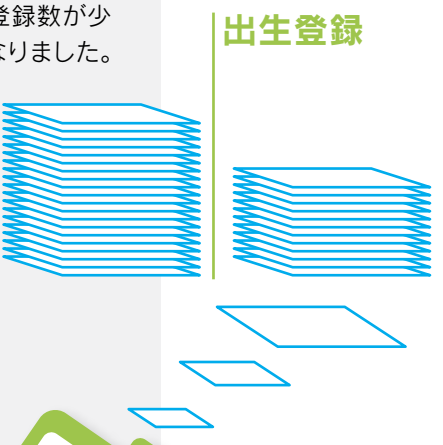
エイズの発症例が多いサハラ以南のアフリカでは、「ムワナ」プロジェクトを通じ、乳児の早期 HIV 診断、フォローアップ・ケアの改善のため、携帯電話の技術が使われました。ザンビアでは、「高速 SMS」（携帯電話のショート・メッセージ・サービス）と呼ばれるアプリケーションを介し、乳児の HIV の検査結果を主要な2都市にある中央検査室からすべての農村部の保健施設へと送信しています。ユニセフの支援プログラムのテストケースとして 2010 年に始まって以来、2012 年までに1万件を超える試験結果が 268 の保健施設（そのほとんどが遠隔地）へ送られました。検査の発注から結果を受け取るまでにかかる日数は導入前の 44.2 日から導入後の 26.7 日へと短縮されています。



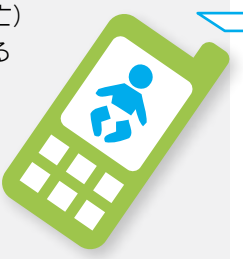
マラウイでは、政府が全 28 地区で「高速 SMS」を使い、早期乳児診断の拡大普及を支援しました。9月までには 500 を超える保健施設が診断を行えるようになり、267 の施設が乳児の検査結果を受け取るのに「高速 SMS」を積極的に利用していました。これは 2011 年に比べると 83% の増加となります。2つの新しいモジュールも導入されました。ひとつは、出産前健診を行うよう、家族に対して自動的に注意を喚起する「Remind Mi」です。もうひとつは、子どもたちの栄養状態を即時にモニタリングすることができる「Anthrowatch」です。

基礎サービスを受ける前提となる出生登録

ナイジェリアでは、2011 年から「高速 SMS」を使い、ウェブ上で見ることができるダッシュボードに2週間ごとに出生登録数をアップロードしています。これにより、登録数が少ない地域を確認することができ、タイムリーな支援を行うことができるようになりました。2012 年には、「高速 SMS」の使用が拡大され、3,000 以上の出生登録センターからデータ収集を行えるようになり、2012 年末までに 300 万人の出生が登録されました。このシステムは、毎年5月と 11 月に設定されている「妊産婦と新生児の保健週間」の主要なツールとなり、さらには出生登録の定期的なモニタリングの重要なツールとなりました。この携帯電話を機軸にしたプラットフォームは、ユニセフの支援を得て「国家人口委員会」が導入しています。



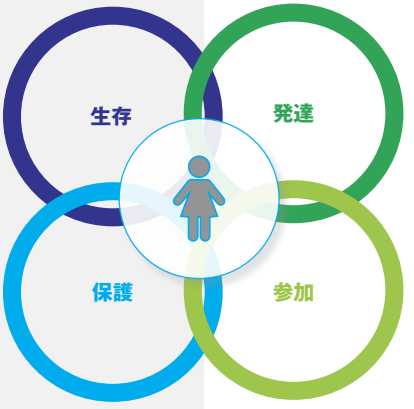
2010 年末以来、ユニセフはウガンダで公共・民間部門とのパートナーシップを組み、「携帯届出システム（Mobile VRS）」により出生登録を推進しています。「Mobile VRS」はコミュニティにある携帯電話から出生（または死亡）届を中央政府のサーバーへ送信するのに利用され、病院や地方政府にあるインターネットに接続したコンピューターから出生証明書が発行されます。国・地域・地区各レベルの 135 の病院のうち、100 の病院から 400 人近いスタッフがこのシステムについてのトレーニングを受けました。その結果、2012 年には 40 万人を超える出生が登録されましたが、これは 2011 年の登録人数6万 3,000 人をはるかに超えています。



既成概念を打破する

革新的なプロセス
子どもたちから奪われているものを探る

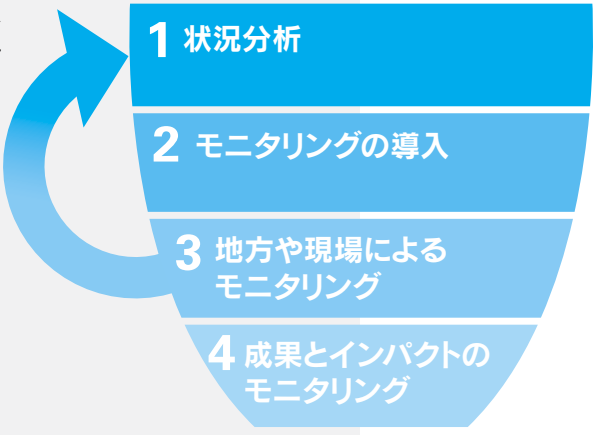
貧しさの中で生活する子どもたちは、ほかの子どもたちに比べていくつものサービスや物、権利を奪われており、その影響は大きなものがあります。ユニセフは、2012 年末に、「多次元貧困分析（MODA）」ツールを開発しました。これは、子どもたちの間の貧困、さらに各国間、各国内での公平性を調査するためのツールです。最も貧しい状態にある子どもたちはどのような子どもたちなのか、その子たちはどこに住んでいるのかなどといったデータを、政府のパートナー機関がきちんと提出できるよう支援しています。このシステムは、既存のツール類と、ユニセフが支援した 2007 年の「子どもの貧困と差別についての世界的な調査」を含む、多次元的な貧困調査、最新の多面的貧困理論に基づいて構築されており、公平性をもとに組み上げた政策支援の指針となっています。



阻害要因と障壁をモニタリングする

2012 年、ユニセフは、プログラムを進める上での阻害要因や障壁となっている事柄を、リアルタイムでモニタリングすることができる「公平性を目指す成果モニタリング・システム（MoRES）」の開発と基幹システムへの組み込みを引き続き行いました。「MoRES」は、ユニセフとパートナー機関が、政策やシステムを改善し、より的確な支援策を選ぶことで、最も不利な状況に置かれているコミュニティの改善を目指すものです。例えばグアテマラでは、「MoRES」は、入学の妨げや中途退学の原因を特定するのに使われ、親の無関心、教材不足、教育の質の悪さ、子どもの飢えなどが原因として浮き彫りになりました。そこでユニセフとパートナー機関は、コミュニティ・ボランティアの採用、出席状況のモニタリング、教師に対する研修強化など、これらの課題を克服する様々な解決策を提案しました。これらの解決策は、政府の「戦略的教育計画」（2012-2016 年）に組み込まれ、現地の少数民族コミュニティであるトトニカパンで試行されました。

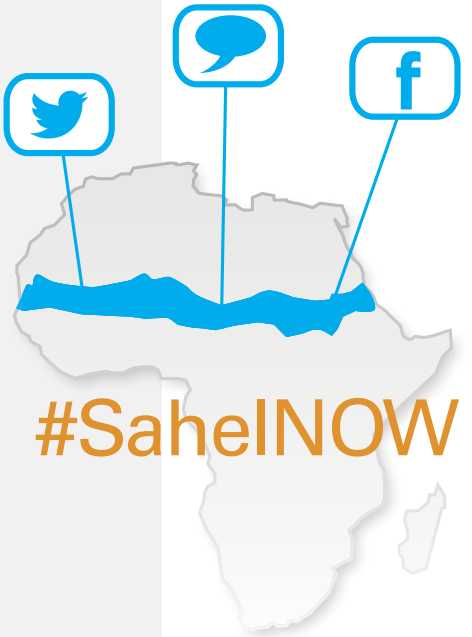
2012 年、「MoRES」は、すべての地理的区分にわたる 30 を超える国々で、各国の状況に応じたエントリー・ポイントで使われました。これらの経験から得られた事柄を分析すると、成功の鍵となったのは次の3つの要因でした。ひとつは、多くの関係者を含む広範囲なパートナーシップ。これには政府、多国籍・二国間組織、市民組織が含まれています。ふたつ目は、モニタリングやプログラム調整に革新的な技術を採用すること。最後は、各国の状況や技術的なプログラムに行動を合わせることです。



既成概念を打破する

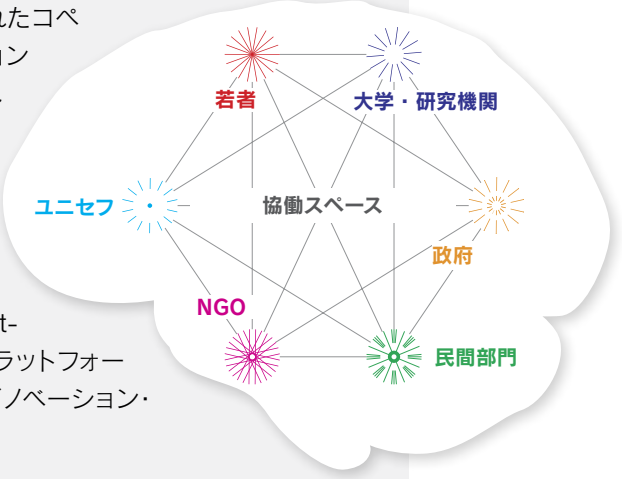
革新的なパートナーシップ
飢餓への警鐘を鳴らす

2012 年、アフリカのサヘル地域全体にわたって、推定 110 万人の5歳未満児が重度の急性栄養不良に陥りました。4月に、ユニセフは、差し迫る危機について世界中の注意を喚起するため「サヘル・ナウ（SahelNOW）」キャンペーンを立ち上げました。ユニセフの国内委員会とサヘル地域にある現地事務所が一緒になり、ソーシャル・メディアを通じたアドボカシー（政策提言）と募金を実施。このキャンペーンの下では、国および世界レベルでユニセフ親善大使が動員され、迫り来る危機的状況により、9カ国—ブルキナファソ、カメルーン、チャド、ガンビア、マリ、モーリタニア、ニジェール、ナイジェリア、セネガル—の子どもたちの栄養状態が危機に瀕している、と世界に警告しました。「SahelNOW」は一般メディアで報道され、CNN でも革新的な方法として扱われました。世界 36 カ国にあるユニセフの国内委員会（ユニセフ協会）は 2012 年に 2,980 万ドルを集め、これにより 92 万人を超える重度の栄養不良に陥った5歳未満児の命を救うことができました。



開発のために世界の才能を活用する

ユニセフは「イノベーション・ラボ」の世界的なネットワークを通じ、屈指の能力を持つ人々と協働しています。ブルンジ、デンマーク、コソボ、ウガンダにあるイノベーション・ラボでは、若い人々、学識経験者、民間部門、市民社会、非政府組織（NGO）、各国政府が、難問を解決するために創造的な解決策を見つけ出そうとしています。彼らは、コミュニティの動員方法、運営面での調査、供給や運営面での物流管理、製品およびサービス開発などの分野の課題に取り組んでいます。

2012 年を通じ、コソボのラボは、置き去りにされたコミュニティ出身の若い人々が必要とする支援と資源を提供し、社会的インパクトについての彼らなりのアイデアを形にするのに一役買いました。2012 年に設立されたコペンハーゲン・ラボは、プロトタイプの緊急シミュレーションを使い、ユニセフの供給・物流業務を精査しました。これは革新的な緊急事態対応策の拠点になる可能性があるとして賞賛されています。

このような素晴らしいアイデアがたくさん出てくるように、ユニセフは、その他のコミュニティや国でのラボ設置を支援するため、「自分でやってみようガイド（Do-It-Yourself Guide）」を作成しました。またオンライン・プラットフォームを導入して、創造性に富んだ人々がアイデアや所説を「イノベーション・ブログ」に投稿できるようにしました。